

（午後3時30分 再開）

○議長（中西峰雄君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番7、10番 平林君。

〔10番（平林崇行君）登壇〕

○10番（平林崇行君）ただ今、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行いたいと思います。

私も議員11年目になりまして、11年前に初当選いたしたときに、本当にこのまちをどのようにしていくか。活気がない、そしていろんな諸問題を考えていくときに、一つでも市民の皆さまの声を形にし、そして、人も豊か、まちも豊か、活気あふれる橋本市をつくるために、一生懸命9年間の議員生活を送ってまいりました。

その中でも、私、今回が議員としての最後の一般質問になります。その中で、私、数多くの一般質問をさせていただき、いろんなことを指摘させていただきました。その中で、本当に行政がこのままやれば後々大変なことになる、そういう諸問題も多く指摘させていただきましたけども力及ばず、そういうことは大きな事業、例えば市民病院、この問題につきましても、私は常々言っているとおり、ものをつくったり何かをする、これに関しては絶対反対することはないと。市民の皆さまが望んであるものであれば、私はそれを完成させていくのは行政の責任であり、また義務であると思っておりますが、しかし、いかんせんすべての事業に無駄が多い。なぜここまで大きなものをつくるのか。病院においても150億円という大きな病院をつくったがために、皆さんもご存じのように非常に病院経営

が圧迫しております。

そしてまた、駅前再開発におきましても、なかなか難しい駅前再開発をあたかもできるように強引に押し進めてきて、今は休止状態。そのときに橋本市は病院、駅前、ごみ、いろんな大きな問題を抱えておりました。あのときは5万5,000人ぐらいの橋本市、そういう大きな事業を三つも抱えることは、本当にこのまちが崩壊していく、私はそういうふうな危機感を持って、議員として一生懸命、そしてできるときは体を張ってでも、このまちの将来のために頑張っていきたいと、そのように思っていました。

3年前には、まず合併ということで、高野口町、橋本市との合併で新設合併があり、この中から将来の橋本市をつくっていくために議員一丸となって、そしてまた行政に対してしっかりと議員の役目を果たすために頑張っていきたいと、日頃常々思って頑張っていました。皆さんもご存じのように、橋本市の一般会計は、合併後も35億円借金が増えております。そして、これからいろんな事業を打ち立てている、それも結構ですけども、やはり無駄が多い。このままでいって、あと合併特例債がハード面のほうで80億円ぐらい残ってるんですかね。それを使うことによって新たな借金が増える。橋本市はほかにも、この3年で職員の30人からの退職者が増える。それによって退職金が10億円前後毎年支払わなければならない。

いろんなことを考えてしたときに、今、この橋本市がどういう姿勢で行政運営をやっているかなければならない。私は非常にこの橋本市の将来に、今のやり方に危機感を持っております。4年が過ぎて、まあ4年後ぐらいど

ないかできるやろうやないか、という甘い状態ではないと私は思います。

その中で、市民の皆さまにも補助金の削減、税金、また国民健康保険、そしてごみ袋の値上げと、いろんな形の中で増税というか負担をおかけしている。私は、皆さんにいろんなことを負担していただくことが悪いとは思いません。それによって市民の皆さまが喜んで、ああ、これからまちは良くなっていくんだ、借金してもいいんですよ。私は借金することが悪いことだと言ってません。それが本当に5年、10年後の将来の橋本市にとって、輝かしいものになるのであれば、私はいいと思っています。

その中で一番の中核となるこの行政ゾーン、今回はそのあり方について私の一般質問とさせていただきます。皆さんもご存じのように、やはりいろんな大きな組織をやるとき、中枢をしっかりと、そしてコンパクトにおさめ、そして市民の皆さまに理解していただけるようなサービスが提供できる行政ゾーンが必要だと私は思っております。その中で、私の今回の質問に移らせていただきます。

橋本市役所を中心とした行政エリアの活用をどのように考えているか。

①保健福祉センター、市民会館、教育文化会館、橋本小学校、勤労青少年ホーム等の建設と、本庁舎外に置かれている上下水道部、建設部をどのような計画のもとに、市民の皆さまに有効な行政エリアにするのか。

②計画があるのなら、各建物、部の活用を具体的に何年度までに行い、予算はどの程度必要と考えているのか。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）はじめに、議員おただしの保健福祉センター、市民会館、教育文化会館、橋本小学校、勤労青少年ホーム、上下水道部、建設部の、橋本市役所を中心とした行政エリアの今後の活用計画についてお答えいたします。

本市長期総合計画における基本構想では、土地利用構想としてゾーン別の土地利用について方針を示しており、市役所を中心とした行政エリアは、国道24号とJR和歌山線に沿って発達した東西の既成市街地と、南海高野線沿いの新市街地等で形成された「市街地ゾーン」の中心に位置付けられ、官公庁施設の集積地として、多くの市民の皆さまに利用していただいております。

本市では、この官公庁施設が集積した行政エリアにおいて、新たな市民サービスの提供や施設の耐震化等の課題に取り組むため、平成21年3月議会全員協議会において「橋本市シビックゾーン整備に関する基本計画」についての報告を行い、より機能的で市民の皆さまに利用していただきやすいまちづくりをめざし、現在取り組んでいるところです。

次に、具体的な計画といたしまして、各施設等の整備に関する今後の年次計画並びに予算についてお答えいたします。

まず、保健福祉センターにつきましては、現在、基本設計を進めており、平成22年度より順次、実施設計、建設工事を進め、平成24年度に完成予定となっております。この内訳としましては、建築本体工事として18億円、備品購入費として2億円、そのほか、旧市民病院の解体工事など約3億円ということで、合計23億円となっております。

市民会館につきましては、本年度中に耐震診断によるI s値を確定する予定となっているため、具体的な計画並びに事業費について

は今後検討することとなります。

教育文化会館におきましては、平成21年12月議会総務委員会において進捗状況の報告をさせていただきましたとおり、現在、平成20年度に実施した耐震診断結果をもとに、耐震補強工事のための実施設計を行っており、耐震補強工事については、平成22年7月に着工して、平成22年度中に工事完了を予定しております。また、工事費は約3億3,400万円となっております。

橋本小学校につきましては、平成15年度に第1次耐震診断、平成18年度に耐力度調査を実施した結果、北校舎においてI s値が0.3未満の危険性の高い箇所が判明したため、その対応として平成22年度にプレハブを建設し、橋本小中一貫校が開校する平成25年4月までの期間、子どもたちの安全性を確保することとしております。プレハブ建設に伴う事業費は約1,500万円となっております。

勤労青少年ホームにつきましては、教育文化会館の耐震補強工事期間中、一時的に教育委員会を移転させる予定となっておりますが、当該工事の施工方法の見直し等によりその必要性がなくなり、当面の間、引き続き利用することとなりました。今後はシビックゾーン整備計画を進めていく中で、改めて活用方法等について検討してまいりたいと考えております。

最後に、建設部並びに上下水道部につきましては、シビックゾーン整備計画を策定した当初、行政機能の集積化を図るため、建設部を本庁舎へ、上下水道部を市民会館へ移転する計画でございましたが、橋本市保健福祉センター計画検討委員会からの答申をもとに、保健福祉センターへの健康福祉部機能の移転内容を再検討した結果、再度、各部署の配置計画を見直す必要が出てまいりました。今後、関係各課と調整を図り、市民にとって利用し

やすい部署配置を図ってまいりたいと考えております。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君、再質問ありますか。

10番 平林君。

○10番（平林崇行君）ありがとうございます。

それでは、議長、1番と2番と一緒にさせていただきたいと思います。答弁の中でもありましたので、よろしく願いいたします。

保健福祉センターがまず第一番に出ておるんですけども、その中で、健康福祉部という部署を移すと。やっぱり遠くへ移すということなので、そこで一つ、建設部長にお聞きしたいんですけども、建設部が今向こうに行ってますよね。今の元病院跡地に。そこで、前、庁舎内にあった場所と今の場所とで不具合はございませんか。業務上、いろんな形の中でね。なかったんやったらないでいいですけど、もしありましたら、こういうことがというのをちょっと具体的にありましたら、一点でも二点でも結構ですので、よろしく願いします。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず技術職ばかり集まっておりますので、非常に市民の方も多分技術系のところについては不便とは思ってないと思います。ただし、やっぱり会議事項とか、すべて庁内で多いですので、そういった行き来の問題等だけでございまして、今のところ何ら弊害はございません。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）何の弊害もないということは、別に、じゃあ今のまま建設部が離れていたほうがいいのか、庁舎の中のほうがやはりいろんな移動に対しても、こんな雨が降った日とか、書類持ったりうろうろするのに、そういうふうな不便さを感じたことがないのか。職務においてでも、一日8時間という労

働時間の中で、やはりこれからいろんな中で無駄という部分の中で、仕事の中でも無駄を省いていかなあかん部分があると思うんですよ。いろんな中でね。その辺のことの不便さ、もしくはこうあったほうがいいんじゃないかという部分は、今までにないですか。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、ちょうど合併のひと月かふた月前に今の西別館のほうに庁内から移りました。それにつきまして、やはり先ほど言いましたように、庁内との会議等、また連絡等、電話等はできるんですけども、たとえ少し離れておっても、やっぱりそういう不便さはまずあると思います。

ただし、先ほど言いました、今まで庁内でしたら、多分その当時、建設課は2階でおったと思うんですけども、そのときは下に農林関係もおりましたし、その中で、まず建設部はほとんど技術屋の集団でございまして、いろんな方が入ってくる庁内の中で唯一技術系の相談事とかというのが、離れておる関係で確かに人の行き来は少なくなっております。庁内におれば皆さん入りやすいんかどうかわかりませんが、ちょっと離れておれば、やはりそういった専門的なことだけで、ある程度皆さんが出かけるということで、部署といたしましても、私も約4年ほどあそこにおるんですけども、今のところあまりにも問題はなかったようには思っております。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）問題なかったということは、建設部はどこへ持っていてもいいということかな。というのは、私が聞きたいのは、やっぱり業務で建設部だけが、じゃあほんなら向こうでおったら、私たちの業務は支障ないと。ほんなら、やはりいろんな方が来る、話する、いろんな中で、建設部は向こうにあったけども、じゃあ建設部に聞かんでも

ええわよという部分の中で、やはり、私の考えとしては、いろんな部がすべてこの庁舎内であるのがベストであると。それもやっぱり時間の短縮ですよ。いろんな中でね。

そういう観点からものをしゃべらせていただいたんですけども、今回、保健福祉センターができたのであれば、健康福祉部を移すということで、そないなったら、今、建設部長が指摘されたように、やっぱりいろんな方が出入りする、役所の中に来たときに、健康福祉部は向こうですよ。雨が降っている日、寒い日、暑い日、いろんな中で市民の皆さんがこの庁舎の中でも移動さすということを嫌うんですよ。あそこ行け、ここ行けと言われて。皆さん、聞いたことないですか。聞いたことないんやったら何をしてるのかなと思いたいくらいなんですけど、多分、聞いたことあると思いますが、そういうことも踏まえて、先ほどご説明あったように、保健福祉センターに健康福祉部を移すというのは、どうして移すのかというのは、行政を本当に統括して、コンパクトにまとめて、無駄もなく立錐の余地もなくびしっとできるような、そういうふうな行政エリアというのは私はつくっていただきたいんですけども、なぜそっちへ移す理由が私はわかりませんが、もしそれが、向こうに移すことによってものすごい機能が増えるんやというのであれば、ちょっと教えていただきたい。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）保健福祉センターの当初計画におきましては、母子健康センターをメインという考え方の中に、事務部門につきましては、健康課と、現在の名称がいきいき長寿課になってるんですけど包括支援センター、この2箇所が当初からその建物の中に移転するとい

う計画を立てておりました。ところが、その中で、中身で言いますと、いきいき長寿課のほうについては介護保険の申請の部門であり、一方、介護保険課のほうはそれをサービスをするということで、同じほうが、今、西別館のほうに入っておりますので、場所を一本化するというのが市民サービスにつながってくるというのが一つございます。

もう一つは、健康課とこども課のほうにつきましても、子育て支援の中で互いに連携をとっておる関係で、来られた方が窓口のほうに行き来という形が、今現在隣同士になっておりますが、その辺も含めて検討させていただいたところでございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）それぐらいの認識でしょうね。それぐらいの認識で市民の皆さんを動かそうという部分で、これは苦情来るのは100%わかってますわ。だから、それぐらいの認識やから、皆さん間違うたことが今までやってきてるけど、先ほどの4番議員みたいに指摘されても、しっかりした答弁が返ってこない。返ってこないはずみが、こういうふうな行政が本当に立ち行かない状態になってるのかなと。私はそういうところに、ものすごく危機感を感じます。それでしたら結構です。

そしたら、保健福祉センターの件でまだ少し聞きたいのは、保健福祉センター、確か3月に基本設計が出てくるということで予算が出たんですけども、まだ2階にするか3階にするか1月ぐらいで決まらなかったということですけども、2階か3階かに言うてあって、もう階は決まったんですか。

それで、3月に総合計画の中で、私は総務委員会の中でスケジュールをいただいたときに、3月に基本設計ができて、6月に実施設計でしたよね。市民の人の意見を聞くと、市長は前はおっしゃってくれたんやけどね。基

本設計ができてから、みんなの意見を聞いたらええんやと。僕はいっぺん図面を出して、議会でももんで、そして委員会を立ち上げたら委員会の皆さんにも確認をして、最終実施設計かと思ったけど、3カ月もたたん間に6月にもう実施設計に入ると言うから、何を考えてやるのかなというのは、僕はわかりませんけども。こういうところで無駄が絶対発生してきますけどね。その辺は3月中に基本設計は出るんですか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）ただ今ご質問ありましたように、当初計画で平林議員の言われたとおりの形でご説明させていただいておりました。今のところ、ほぼ内部的にもあと一部を残して提案できるところまで来ているところなんですけど、若干まだ調整つかずのところがございますので、調整つき次第提案させていただきたいというふうには考えております。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）それでは2階建てなんですか、3階建てなんですか。それはもう決定しましたか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）現在、3階で調整させていただいているところでございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）済みません。調整じゃないんですよ。2階なんですか、3階なんですかという、どちらかはっきり言うてください。もう3月ですよ。基本設計が、図面ができてくるのが。だから、どちらなんですか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）失礼しました。3階という形で進めさせていただいております。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）面積が変わらんと4,500㎡で3階建てといたら、私はもう少し、5階建てくらいをイメージしながら、駐車場二百何台かな、とってという部分なんですけども、そこまで3階にこだわって、4,500㎡にこだわって20億円、つぶし入れたら23億円なんですけども、それをこだわってるんですけども、同じでしたらもう少しスリムにすれば土地も少なくてもいいですよ。これで一部借りてる土地ありますよね。スリムにしたら駐車場の分、だれが見てもぺたっとしてするより、ちょっと上へ上げたら面積が少なくなるから、その分で民間から土地を借りてる部分があると思いますけども、それに関しては年間何ぼ地代払うんですか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）確かに、今言われましたように一部、元病院用地につきましては借地がございます。それで現在、本年度で払わせていただいたのが559万2,805円を支払っております。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）559万円ということで、これもなぜそこで3階にこだわったのか私にはわかりませんが、私はこれ、建てることに対しては、こういう大きなものを建ててくるのは全面的に反対なんですけども、もっとコンパクトで、建てたらあかんとは言うてませんが、小さくていいんじゃないかなと思ってます。だから、ここでも少し、本当に4,500㎡のものがほしいのであれば、もう少しコンパクトにして、上に縦長にしてしまったら、年間500万円という予算は要らんです

よね。地代を払わんでもいいんですよ。

だから、そういうふうなことを僕、どこを、何を観点にこれ、考えているのか。それで、まだ3階であるとは思いますが、今まあ言うてくれたんですけど、まだ、どういう保健福祉センターを建てたいんですか。だから、一事が万事こうだと言うんですよ。だから、この辺の行政エリアを本当にどういうふうな、保健福祉センターだけを建てて、母子センター、休日急患センター、まあ入れるのはいいですよ。そしてあと何やら相談業務とかいろいろ入れるんですけど、あと会議室。じゃあほかの教育文化会館も会議室があって、いろいろ橋本小学校もあいてくる。勤労青少年もあいてくる。そして市民会館も、耐震のあれの部分で。

だから、全体のもが見えないんですよ。だから、この行政エリアで何をしたいんですか。私は、一つの中にいろんな部をすべてコンパクトにまとめて、そして皆さんが「おい」と言えば「はい」で答えられるような、このエリアの中での行政運営が、私は絶対に皆さんの労力も少なく済むし、そして能率も上がると思っておりますので、1,200万円設計予算がございましたので、保健福祉センターに関しましてはこれ以上は言いませんけども。そういうふうなものの考え、いまだいまだに設計も出てこない、計画性のない、そういうことをやっていけば、私はまた病院の二の舞になるような気がします。

次に、市民会館のほうなんですけども、これは先ほど耐震云々の中で言うてましたよね。これ、市民会館、私は不必要やと思ってます。要るんですか。というのは、高野口の、何でもそうですけども、やっぱりふろしきとか、自分とこの枠に合うたような、大きさに合うたようなまちづくりをするべきやと思っております。1,900万円出して、利用料も

減っている、今度は産業文化会館もある。別に私は駐車場がないのであれば、あそこをつぶしてもいいと思いますよ。そしてこっこの2階の部分だけは置いておいて、あそこをまた、いろんな建設部が入るんか何か知りませんが、そういうふうな入れ物を再利用してもええと思いますけどね。市民会館については耐震出たら考えるかという話なんです。それとも、市民会館はこうして、こういうふう利用するんやとか、私が言うたように行政エリアの中で、いろんな形の中でみんなが便利になるように、残しておくものは残しておく、要らんものは要らんという、市民会館に関してお考えはあるんですか。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）以前の議会の中で、5番議員からも市民会館、産業文化会館、どちらか一個にしていったらいいんじゃないかというようなご質問もいただいたことがございます。その中で、今の現状では利用率から見ましたら、それをどちらか一方にしようというのは非常に市民にご不便をおかけするということで、今のところ両方とも必要であるというふうにご答弁させていただきました。しかし、今現在、耐震の診断をしている最中ですので、そういったことからその結果を見て、最終的に判断をしていきたいということがございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）副市長、今、答弁あったけども、必要であると言いましたわね。したら耐震が悪くてもええでも、あれ維持しなさいよ。するんですか。耐震悪かったらつぶすんですか。つぶしたら不便かけるんですよ。そうでしょう。私は計画を聞いておるんですよ。耐震がどうのこうの話じゃないんですよ。耐震が悪かったら、あそこは必要やから、ちゃんと耐震補強をして、ちゃんと利

用しますと言うのか、いや、耐震がどういう結果であろうが、あそこは一つでいい、産業文化会館があつて体育館がある、利用状況を考えたら。私の頭の中では一つで十分です。あと足らん部分は体育館に行っていたとしても結構ですからね。結構部屋がありますから。私はそれを言うておるんですよ。

ですから、根本がもともと発想が違うみたいなのでね。ですから、もういっぺん聞きましょうか。市民会館をどういうふう利用しようと思ってるんですか。耐震悪かったら耐震を入れて不便をかけるから、何億円をかけてまた直すんですか。それで、今、副市長おっしゃったようにつぶすんやったら、不便かけた分どうするんですか。

答弁をお願いします。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）最終的な判断というのは、耐震の結果を見てから、費用的なこともどれぐらいかかるかとか、改修するにしてもその結果を見ないとわかりませんので、まだ具体的には今のところ決めてはおりません。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）題目よう読んでくれる。質問。橋本市役所を中心とした行政エリアの活用をどのように考えているかという質問なんです。私、きょうは。建物を維持するかせえへんかの話をしとるの違うんですよ。本当に市民会館が必要であれば、耐震しようが何しようが置いておいたらよろしいやんと。私は要らんと思いますよ。今の答弁では、耐震でいけたら置いておくけども、あかんやったらつぶすみたいな答弁ですわね。私はそう聞こえました。これ以上こんなことやられても時間の無駄ですので結構です。

それと、教育文化会館につきましては耐震をするということで、また皆さんにできるだけ早く利用していただけるようにしていただ

いたらいいと思います。

それで、橋本小学校につきましては、教育長もいろいろおっしゃって、できるだけ早く移したいということを考えておられるようですが、もっと一生懸命PTAの方とお話をしながら、皆さんが理解と納得としていただいた時点で小中一貫というものを進めていきたいと私は思っておりますので、まだまだご不満を持たれている保護者の方も多いため、その辺はもう少し考えていっていただきたいと思いますが、いずれは小学校があくということの中の前提の考えの中で、私の考えの中では、あそこはやっぱり高台にもありますし、環境もいいですから、あの建物は図書館とかいろんな諸団体とか会議室とか、体育館もありますし、グラウンドは運動公園にもできるし駐車場にもできますので、やはりあそこの活用は非常に急、建物を利用した画期的な、私は費用もかからずにやれると思っておりますけれども、その辺について、小中一貫で小学校が移転したときの、後の、この橋本小学校の利用の仕方は何か考えておられますか。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）橋本小学校につきましては、耐力度調査でもアウトと出てますので、これにつきましては、最終的には取り壊していきたい。ただ、体育館につきましては、これは新しいですので耐震もあります。それも活用しまして、高台にあるということもあります。そういうことで、現在のところはいろいろ言いましたけれども、具体的に何をするという事ではないですけれども、そういう地の利を生かした形で活用していきたいということで考えてございます。白紙状態でございますけれども、そういうことです。

それと、あそこにつきましては埋蔵文化財の関係もございまして、それも含めて検討していきたいなというふうに考えてござい

す。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）耐力度調査の結果で、ということは、私、耐力度調査のことはあまり詳しくないんですけども、学校としてだめなんですか。建物として、例えば、普通に使う、皆さんがいろいろ入るのを耐震補強をしても、北校舎かな、悪いのはね。その部分もすべて耐震補強しても、普通の、例えば倉庫であるとか、いろんな形の運営する中では使えないんですか。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）耐力度調査そのものは文部科学省の補助金の対象になる基準でございましてけれども、文部科学省だけが特にそういう基準ということじゃなしに、耐力度調査でアウトのものにつきましては、かなり使いづらいものということと一般的に解釈、耐震補強しましてもかなりの費用が要ということで位置付けて、判断していいというふうに考えてございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）だから、文部科学省の判断で、私言うているように、単純に言うてと思うんや。例えば、補強を入れて一部倉庫にするとかね。何億かかるって、それは五、六億円かかるでしょう、十分。それでも利用価値がある。いろんなところで倉庫が点在していますわね。いろんなものを入れて。そういうものを一つにまとめるのも、これから行政運営をやっていくにわたっても、無駄とか云々の中で十分に使っていけるものであるんだから、そういうことを、いろいろ使い方をいろんな観点から考えてくださいよ。だから、文部科学省が言うから、建物としては使えへんや違うて、例えば補強したら何かに使えるよという部分の余裕、余白があるのかどうかということで、少し、簡単に結構ですから



言うてください。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）白紙の状態と言いながら、ちょっと突っ込んだ答弁しまして済みませんでした。人間が入る施設としては、ちょっと適当でないかなというふうに考えてございます。それで、倉庫とかいろんなことを、言われましたようにありますので、それも含めて今後の検討課題にしていきたいというふうに考えてございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）検討課題と言わんと、だから私は、使えるんですかと言うてんですよ。倉庫とか、あんなにも私は使えると思いますよ。ですから、今言うたように行政エリアの中で、本当にいろんな中のもので、倉庫に直しておかなあかんものとか、いろんな形の中で必要な部分が、地域に点在しているものがいっぱいあるでしょう。それを一つにまとめて、何かあったときにいろんな形の中でやっていったらいいんじゃないですかと。使えるようにということ、私はお聞きしているだけなんですよ。

あともう一つ、建物、勤労青少年ホーム、ありますわね。これは今度、ここ、耐震を入れる間、教育委員会が移るのかな、一部。文化会館が移れへんのかな。そのままあきですか。あきでしたら、ここは今あまり利用されてない。もったいないですわね。役所の真横なのに。それやったら建設部か何かもってたりよ。皆さんいろんな形の中で、うそかほんまか知らんけど、夜8時になったら早う帰りたいと言うて向こうでおるとい人もおるし。ですから、そういうことも含めたら、近くの中でおったらいいんですかということなんですけども、そういう考えはないんですか。

○議長（中西峰雄君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）一点、橋本小学校

については、人間が出入りするような施設には使えません。それは人間のことから言いましたら、絶対具合悪いです。それで、どの程度の倉庫にするかということの中身になってこようかと思えます。

それと、勤労青少年ホームでございますけれども、これの必要性について再度、現在も使っております。ということで、していく中で活用なり、耐震もしなければいけませんし、そういうことで考えていきたいというふうに考えてございます。

ということで、具体的に今、どういうふうにするかというのは組織決定してございませんで、この場では言えないような状態でございます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）いろいろご答弁いただきまして、先ほど1回目の答弁の中で、こういうふうな行政エリアをより機能的にということ使っていきたいというご答弁があったと思います。より機能的というのであれば、こういうふうな私の再質問においてでも、やっぱりどういうふうな機能的に使うんですかという答弁、これ、ずっと一個一個建物いきましたけども、僕は答えがあつてしかるべきやと思うんですよ。これぐらいの計画はね。

だから、皆さんが言うてるこの行政エリア、シビックゾーンと言われるこの地域を、本当にどういうふうな活用をして、市の職員があまり移動もなく、そしてその中で皆さんが効率よく仕事をする、無駄を省くというのも一つの行政改革なんです。私は給料切るの嫌いやけどもね。皆さんやってるけども、それも大事やけども、やっぱりこういうふうなこともすべて考えた中で、足元をちゃんと、計画性のないやり方をしていたら、ここへ20億円の建物建てたわ、それではそっちへ移せよ。またすくさかいにちょっとずつ移してい

こうかと。またこっちがあくと。何か、先が見えないんですよ。だから、行政エリアすらきちっとできない橋本市の行政が、橋本市全体なんて見えることないんですよ、私から言えば。少なくとも、私も仕事してますけども、目をつぶってでも倉庫に入ってどこの何番目にどういうものがあるって、数がどれくらいあってと。全部把握できますよ。車の中しかり。それが一番無駄を省くことなんです。どこに何がある、あれどこ行ったかなと探す前に、その無駄を省くためにも近隣のほうがいいんですよ。

ですから、そういうことも踏まえて、私は保健福祉センターにしても、計画性がない、こういうことをやっている行政に対して危機感を感じています。このままで合併特例債の残りを使えば、今現在、橋本市が新市から一般会計で35億円の借金を増やしてきましたわね。先ほど言ったように、まだ職員の退職金だ、市長もいろいろ20億円も言われている、それでほかの、また向こうの小中で小学校も建てる、向こうも建てる、それでいろんなことも。それで消防署云々の中で、いっぱいお金を使って、その運営費を考えやんと使って、今、苦しんでるのが京都の丹波市かな。丹波市ですね、ごめんなさい、篠山市ですね。篠山市ですわ。

だからね、計画性が見えないんですよ。保健福祉センターでも、もう少し上に建てれば年間500万円浮くんですよ。余計な金を払わんでも。そういうふうな中で、本当にこの行政エリアをどのような整備をして、まあ早う言うたら、何年度までにこれはこうやって、予算をどれぐらい付けてと。これは市長、トップである市長が上からの命令でやはりある程度考えてもうとかな。だから、これだけの金が要るから、これをこういうふうな形で金をつくらなあかんということで、ごみを減量す

るんかそれは知りませんが、その中で市長、答弁いただきたいのは、本当にこの行政エリアを、市長は今言うた施設全部を総合的に考えて、どういうふうな利用をして、この行政エリアを活発にし、そこからメッセージを市民の皆さまにお伝えできるようなまちづくりを考えているのか、ご答弁ください。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）私、今まで平林議員のご質問をお聞きして、1年間文教厚生委員長として、この保健福祉センターについていろいろと中心になってご議論いただいてきたのに、なんか十分中身をわかっていただけてないやなということで、非常に残念に思います。

今回、橋本市が市民病院跡にいろんな福祉の機能を移そうということで決断しましたのは、やはり市民の視点に立ちまして、行政の職員がどうこうというよりは、市民にとって利便性のいい、たくさんやっぱり集まっていた施設をどうすれば構築していけるかという中で、いろんな福祉の機能であるとか、そういった保健福祉、子育ての機能をそこへ持っていくことで、当然、福祉事務所機能もそこにあるほうが市民の方々にとって利便性が良いという最終的な結論に至ったものであります。

先ほど、篠山市のお話、事例に挙げておられました。私も行ってまいりました。自分も篠山市に、市の職員に友達がおりましたのでつぶさに見せていただきましたが、篠山市はいわゆる新しい事業の施設にすべて合併特例債を充てたということで、本市の場合は既存の事業にできるだけそれを充てていって、負担を少なくしているということで、根本的に違いがあります。そういった点についても十分ご理解をいただきたいと思います。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）副市長、私の質問をよう聞いてな。私は市長と言うたんや。なぜ副市長が答えるのよ。

それで、残念だと。私が理解してくれてないというか。副市長、そんな言葉をここで言うんやったら、市民のことを副市長が理解してないと私は言いたい。そんな建物にいろんな福祉の充実をして、じゃあ皆さんここへこないして来るんですかと。福祉を使うような人が、体が元気な、車に乗れるすばらしい人ばかりなんですか。それは副市長の考え方で結構です。

私は、私の立場で市民の皆さんの声を聞いて、高齢化している橋本市をどうするかと思ったら、市が公民館を中心に出ていくべきなんです。公民館活動の中から行政がもっと地域の福祉サービスを充実させるんです。ある建物、既存の建物で行政の人間がそこへ出て行って、福祉の充実を図るんです。そのほうが市民の人にとっては負担は少ないんです。これの20億円の年間の維持管理費、億近くかかります。そんな金があるんでしたら、もっと公民館に人を配置して、地域の福祉、いろんなこと、教育、教育といえは子育て、そういう相談業務を近くでやるべきなんです。それが大事なんですよ。それが全然わかってないんですよ。いっぺん回ってみてくださいよ、橋本市全部、一軒一軒。皆さんがどうなっているか。どういう福祉をしたいのか僕はわかりませんよ。お年寄りなのか子育てなのか。子育ては僕言うてましたやん。母子センターはちゃんとしましょうと。休日急患センターはしたらよろしいですよと。

私、なんべんも言いますけども、建物を建てたらあかんと言うてない。必要なものは建ててください。そこへ無駄を乗せないでくださいと言うたんですよ。後々これ、だれが払うんですか。特例債かなんか知りませんが、

維持管理費が要るんですよ。人も入れれば、またいろんな余計な経費がかかるんですよ。そういうことも含めて、そんな金があるんであれば、もっと細かくいろんなところの地域に対して、行政が出向く機関をつくるべきなんです。これが橋本市がやらなあかん部分なんです。というのは、そういう道路も、コミュニティバスにしろ何にしろ出てますけども、整備されてないんですよ、十分なんですか。十分じゃなかったらここへ来いじゃないんです。行政が出ていくんですよ。そういうふうなことをせなだめなんですよ。

市長、答弁よろしくお願いします。いや、副市長、議長、言うてくださいよ。私、市長に答弁願ってるんやから。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）私としましても、50年、100年先の大計のことを、きのうもお話させてもいただきました。この福祉センターの問題、私はこれはいかにしてうまく組み立てていくかということが、本当に議論をしておるわけでありまして。今としては小さいなど。しかし、これ以上大きなものはできないというところまで来ておるわけでありまして。

先ほどから平林議員も、どないして来るんですかとかというようなことをいろいろ言うてますけども、私の基本は、それぞれ健診センターとか地域包括支援センターとか、あるいは障害者支援センターとか、あるいは休日急患だ、そういうものも入れていきますけども、コミュニティバスの充実化をやはり高齢化に向けて同居して行って、終点は保健福祉センターですよという形づくりがうまくできないだろうかなと。

そしてまた、いろいろ総花的なことにつきましては、橋本市に100の区があるんですね。リーダーの養成を頻々にやっていく、そこで。

その人がボランティアで公民館なり地域でやっていただく。地域には全部集会所なりあるんですよ。それで拠点、拠点到公民館もあるわけですから、その中間のリーダーの養成。これを100人が、常時来ないと思いますけども、これで立ち上げていくという、皆が来い来いとは言いません。やはりそういうリーダーの人をしっかりと、これには県や国やそれぞれの皆さんの、専門家の人も入れてどんどんやっていく。

それで、保健福祉センターに限っては、すべてそこで行うと。教育文化については、申し上げたように教育文化会館でやるという分け方をしっかりして、そして憩える場所もつくっていかねばならないし、コミュニティバスで送迎もせないかんとしますし、これは今度の市長選挙の出直しの選挙で、ひとつ当選した者が今後の方針を決めていただくのが望ましいと思いますので、答弁にかえさせていただきます。

○議長（中西峰雄君）10番 平林君。

○10番（平林崇行君）いろんな中で、当然養成するのも大事です。当然そうでしょう。いろんな方を、100人というのは、どういう方を対象に100人と言うてるのかわかりませんけども。

（「各字で一人よ」と呼ぶ者あり）

○10番（平林崇行君）各字でも結構ですけども、じゃあ、そういう養成するための予算も要るんですよ。だから、今本当に私が危機感を持っている、橋本市が抱えている借金600億円という形の中で、これ今現状は市長、よくわかってくださいよ。ものが安くなって、給料が安くなって、そして税金は上がる。ということは、借金の付加価値が大きくなってきておるんですよ。ですから、私はここ数年間、この景気を見ながらでもいろんな形の中でも、いろんな形を進めていってやっていか

なあかん。いろんな多様な考え方、今の現状に合った行政運営、そして5年、10年、20年後を見据えた行政運営をやっていかなければならない、そのように思っております。

市長が今おっしゃったように、本当に橋本市がその20億円のを建てて、耐え得るだけのまちであるのであれば、私はいいと思います。私が見る限り、とてもやないけども今の行政運営の形をやっていけば、結果はおのずと見えてきてると、私はそのように思っています。その結果が合併後に35億円、まだこれから、どんどんどんいろんな形の中で大きな予算が出ていく中で、やはりしっかりと見た、企業誘致にしても、市長おっしゃってる企業誘致でも、なかなか難しい。いろんな形のなかで本当に維持していくことだけが難しい、こんな時代になってくるときに、そういうふうな大きな建物の維持をこれからの世代に押し付けるような真似だけは、私はしていただきたくはないと。私の考えですから、そのようにお伝えして私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。皆さんどうもお世話になりました。

○議長（中西峰雄君）これをもって、10番 平林君の一般質問は終わりました。

○議長（中西峰雄君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明2月16日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思っております。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中西峰雄君）ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日はこれにて延会いたします。

（午後4時25分 延会）